

平成 27 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

昭和 42 年から続いているこの事業は今までに 73,491,296 台の自転車を点検しました。

(一財)自転車産業振興協会は日本自転車軽自動車商協同組合連合会(日商連)と日商連傘下の 44 都道府県自転車商協同組合の協力を得て、日常使用している自転車の点検・整備の促進を図るため、自転車の点検事業と講習会を実施しました。

平成 27 年度においては、拠点型と店舗型を併せて自転車 408,506 台を点検し、433 会場で講習会を実施しました。

「拠点型安全点検」は学校・公園・街頭等で学校・警察署・地方公共団体・自転車安全推進団体等と連携して、2,891 会場において、373,946 台を点検しました。

【実施会場の内訳】

平成	会場数	小学校	中学校	高校	公共施設	公園/街頭	その他
27年	2,891	1,229	914	267	117	183	181
26年	3,002	1,292	914	261	134	234	167
25年	3,043	1,314	902	275	168	226	158
24年	3,030	1,294	888	297	147	217	187
23年	2,990	1,289	881	287	173	194	166

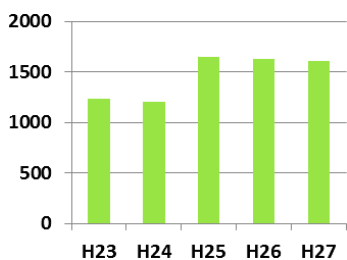


【平成 27 年度総点検台数における要整備個所の割合】

総点検台数	ブレーキ	チェーン	ペダル	車輪	ライト	リフレタ	尾灯	錠	ハンドル	変速機	フレーム前ホーク	サドル	ペダル	その他
373,946	7.0%	5.3%	5.2%	4.9%	2.5%	2.1%	1.1%	0.9%	0.6%	0.5%	0.3%	0.3%	2.0%	

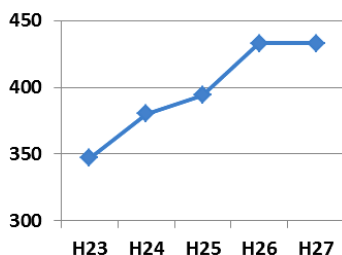
「店舗型安全点検」は日商連傘下組合員自転車店の 1,607 店舗において、34,560 台を点検しました。

【店舗数の推移】



「安全点検講習会」は自転車の整備点検の必要性と安全利用の講習会を学校・警察署・地方公共団体・自転車安全推進団体等が実施する 433 の催事会場で開催し、41,855 名の参加がありました。

【会場数の推移】



《実施組合(都道府県自転車商協同組合)の所見》平成 27 年度分概略・抜粋

拠点型安全点検

要整備箇所の上位は、ブレーキ、チェーン、車輪、ライトでした。タイヤの空気不足も目立ちました。点検後の整備の重要性を広め、自転車利用者に整備を促すことが大切であり、課題でもあります。
各会場とも沢山の参加者があり自転車の安全点検の重要性を周知し、交通安全に寄与する有意義な機会である。今後とも継続実施して欲しいとの要望が多数ありました。
学校での点検(子供たちの自転車)が主でしたが、ブレーキの要整備が多く見られました。
天候の関係で当初の予定より、子供の集まりが悪い会場もありました。生徒数の多い学校は、学年別を実施した会場もありました。昨年同様、TS マークの貼付では更新が依然として進んでいない。
高校になると、中学校から同じ自転車を利用している生徒が多く、要整備自転車が多くなる。小・中学生の頃は新しい自転車が多いので、要整備は少ないが、空気圧が低いものが目立つ。月に一度は空気を入れるように先生を通じて伝えてもらった。近年、高額な賠償命令の出る自転車事故が多いためか、昨年より TS マークの貼付が増えたように感じた。拠点型の安全点検を通して見つけた要整備自転車は、きちんと整備しないと通学の許可が出ない学校もあり、点検の必要性・意義は十分にある。今後も安全点検・指導に努めたいと思う。
学校、PTA、警察、安全協会など多くの協力のもと終えることができた。
各学校において取り組み方が違うが、TS マークを貼付されているものが多くなったように見受けられる。
今年は TS マークが伸びたように思っていたが、昨年とあまり変わりがない結果だった。春先の点検だったのもあるが、もう少し普及させ、点検を習慣化できればよい。
点検会場数が減少している中、市のノーカーデーに合わせて市役所にて点検を実施した支部があった。今後このような場所と機会があれば積極的に参加したい。
都市部の小・中学校では自転車通学は禁止である。点検の要請は郡部の方が多くある。TS マーク無の自転車が多い。
本事業に賛同された学校や公共団体等からの要請を受け、自転車点検を実施した上で、その場で出来る調整・整備を実施しました。全体的に生徒数の減少等により、点検台数も少なかったようです。
要整備車では、ブレーキとタイヤの項目が増えている状況である。また、TS マーク貼付自転車は増加と良好。引き続き啓発していきたい。
自転車点検後に講習会を開き、自転車の安全な乗り方等の指導をした。事故につながらないよう、自転車の点検も必要なことを知ってもらおう。
自転車事故で被害者、加害者にならないよう講習会を開く。TS マークは以前より関心を持つ人が出てきたようだ。
要整備車の割合は、昨年度とほぼ変化がなかった。要整備箇所では小・中・高校生でベルがトップ、続いて小学校はライト、中学校はブレーキとチェーン、高校はリフレクタと車輪となっている。一般対象ではブレーキ、チェーン、車輪の順となっている。防犯登録証無は、一般は3%、中高生は5%未満に対し、小学生は18%。TS 無は、一般は90%、小・中・高校生は60~76%となっている。安全な自転車に乗るため、PTA の方から点検の要請があった。また、点検の結果を踏まえて先生方より自転車の整備を呼びかけ、自転車の法改正もあり、危険性についても注意し安全指導をしていきたい旨の話があった。
交通事故に直結するブレーキやタイヤの不良が目立ちます。また、TS マークの貼付があっても期限切れが多く、そのために点検時の不良箇所が目立ちます。(TS マークの有効期間は、TS マークに記載されている点検整備の日から1年間です。)
全体的に良好との意見が多いが、チェーン等、タイヤ回りの不良が目立つ。TS マークについては貼付されていても期限切れが目立った。
安全点検を実施する支部が減少しているように思われます。依頼を受けたら積極的に行うよう指導していきたい。
ベル・ブザー、ブレーキ、チェーンの整備が必要な自転車が多かった。
県の自転車安全教育推進委員会において、教育委員会の役員に安全点検の重要性を話し、各学校へ安全点検を実施するよう要請しました。
空気圧が低い、チェーンの弛みがある自転車が目立った。
この事業は組合の期間事業に定着しており、組合員の積極的な活動により学校関係者・警察署員・交通安全協会等との協力を得ながら、自転車の安全利用の促進と、きめ細やかな指導を行うことで各関係団体から好評を得ている。
小学3と4年対象に実施した。車種は多種多様であり、最近リアキャリアが無く、リアフレクタの曲りや割れ、ベルもプラ製品の破損が多い。また、小学生は夜間走行が少ないため、ライトの整備がされていない自転車がほとんどである。中・高生ではブレーキ調整不良が多く、点検カードに記入後、先生に整備の徹底を依頼。TS 期限切れは更新説明と販売店来店を促した。昨今はハンドルを上向きにした危険自転車が多くなっている。
組合員の丁寧な点検作業に大変喜んでいただきました。実施支部の減少が気になります。
地域の方々と連携を取り、実施いたしました。来年度も学校、警察などと連携をし、自転車の安全対策に積極的に取り組みたいと思います。
環境志向や健康志向の高まりがあると考えられている今、地域における観光やコミュニティ・健康のツールとして、自転車との関わりを業界がアピールをするに適切な事業と考えます。
点検会場は増加している。要整備自転車をそのまま乗っている方が多く、点検後の整備が問題となる。
県下各支部の協力により、今年度の計画以上に実施できた。これからも自転車事故防止のために頑張りたい。
安全点検事業を継続して行っている地域では、学校等、各機関から理解を得られ協力体制ができてきているようである。自転車は点検整備が必要であるという、ユーザーの意識向上に繋がるよう指導していきたい。
計画よりだいぶ少なくなりました。来年度は各支部に実施していただけるよう告知していきます。
今年も例年通り学校・公共団体と連携して自転車の無料点検を惹なく行うことができました。台数としては昨年より少し少なかったが良好車の割合が増えてきているので毎年の点検活動の結果かと思われれます。

<p>小・中学校の点検は以前からありましたが、最近では高校や街頭の点検依頼も増えてきているようです。大人の事故が増えていることも関係しているのかもしれない。(安全協会、警察からの依頼)</p>
<p>今年度は高校での安全点検が1会場もなかった。学校で点検を実施するよりも各自が各店舗で点検を行うような方向性になってきたのだろうか。県でも平成27年4月1日より「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が施行され、利用者・職場・学校・家庭・小売店等、それぞれが事故を減らすように連携して取り組むことになった。この条例施行が、安全点検に結び付くことを願っている。しかし、組合員の減少と共に拠点型安全点検実施報告書の提出数も減少している。仕方がないと思うが、今後学校から依頼があっても対応できるかどうか不安である。</p>
<p>点検後に学校側とPTAの方と話し合いを持ち、今後は点検後の対応として、危険な状態にある自転車については下校中に整備をする方向で考えてもらえるような話をして、部品及び修理代についても打合せをした。全体的に事故防止の方針を検討中。</p>
<p>毎年行っている会場は変わらないが、本年度は高校から依頼があった。各会場「不具合のある自転車が少ない。」としているが、1台でも不具合があってはいけないと考えている。依頼があった時には必ず対応して欲しいと組合員にお願いをしている。</p>
<p>昨年より5会場増。点検台数も増加。条例により点検の意識が高まった可能性がある。出動する組合員が高齢化、今後の事業の方向性を検討する必要があると思います。</p>
<p>前年と比較して要整備車がやはり多いので、実施依頼者に注意喚起をしていきたい。</p>
<p>ブレーキの不備が多く、事故にならないよう整備のお願いをした。</p>
<p>安全点検の実施要請をする学校が固定化してきている中、多くの学校の担当教師、PTAの方が生徒の安全安心のために安全点検は必要であると認識され、喜んでいただいている。</p>
<p>交通対策協議会より春・秋の全国交通安全運動と連動した自転車マナーアップ強化キャンペーンの一環として交通安全指導強化並びに各種啓発活動への協力要請があり、各支部では、所轄警察署からの協力依頼を受けて主に街頭での自転車の安全点検整備・交通安全指導を重点に実施。自転車利用者の安全意識の向上と交通ルール周知に努めた。</p>
<p>僻地の小・中学校は生徒数の減少によりその大半が統廃合されたが、それでも残っている学校から点検の要請があり台数は少ないが実施をして喜ばれた。タイヤの要整備はそのほとんどが空気圧の具合が充分でなく、高校の点検時にはタイヤの空気圧を3段階にわけたタイヤを展示して入れ方の説明と指導をした。自転車事故が多発し、県教育委員会より指導を受けた高校2校を県組合が点検実施し、その後各々の学校において生徒を一同に集めて点検の必要性を指導し、学校側にも協力を要請した。</p>
<p>学校側が交通安全に力を入れているところは自転車の整備ができています。全体的にTSマークの貼付は多くない。防犯登録無の自転車も見受けられる。昨今、自転車事故が多発しているので、より一層の指導が必要です。</p>

店舗型安全点検

<p>店舗型はユーザーに直接点検整備についての説明ができるので良い結果がでます。点検後整備につながれば、店舗にとっても収益が上がり、プラスになります。</p>
<p>修理のために来店し、点検もあわせて行った店舗がほとんどだったようです。点検のみでは人が来ず、2カ月近くのぼり旗を掲げていた店舗もありました。</p>
<p>まだまだ認知度も低く、お客様から安全点検を依頼されることは少なく、バンク修理、故障時等に「安全点検」をお勧めし、実施しました。今後は組合の指導不足を反省し、組合員の認知度を高め、お客様の方から「安全点検」を依頼されるように頑張ります。</p>
<p>まだ認知度が低く、のぼり旗を立てても無料で点検してくれるとは思われていない。最初だけ無料で、整備してお金をとられると思われる方が多いように感じる。修理に来られた方にそれ以外の点検をしてあげた、と言う店舗が多数あった。今回は、自転車の取り組みが盛んな市で初めて実施した。今後、国体の競技会場になる地域なので、より定着した事業となればよいと思った。</p>
<p>自転車の点検時に、点検、整備、交通ルールを守ることなどの大切さを話し、安全に対する考え方を再認識してもらうよう努めた。お客様とのコミュニケーションが図れた。実施店舗が少ないので、来年度はもっと多くの店舗で実施していきたい。</p>
<p>報道等の影響で点検の大切さが浸透してきたようだ。</p>
<p>今回の報告書の数字を見るとユーザーが自転車購入のための来店か修理のための来店かが分かり、自転車販売店の特徴が分かる結果となっている。</p>
<p>無料点検で見つかった不具合について、修理をお勧めしても断られるケースも多い。</p>
<p>自転車利用者に対して乗用安全の意識を高めるため、各自転車小売店において自転車各部の安全点検を実施し、要整備箇所があれば、自転車利用者へ整備を促し、実施いたしました。</p>
<p>整備内容で多かったのが、タイヤの摩耗や空気圧不足。また、若い方の中で、修理に応じない傾向もみられる。地域によっては、TSマークについて、学校での呼びかけが徐々に反映されてきており点検者も増加。一方で、学生以外はTSマーク貼付車が少ない状況もある。</p>
<p>今年も秋の全国交通安全運動が始まる前に、安全に自転車に乗られるように自転車の安全点検を実施。ひどく壊れた状態で乗っている人は少なくなったが、タイヤの空気が抜けている自転車に乗っている人が相変わらず多い。</p>
<p>安全点検での乗客は、無かったが、修理に伴い点検を行った。バルブ・ハンドル・チェーン等、要整備のものは整備を行ったが、タイヤに関してはダメになるまで乗るとのことで交換までは無かった。顧客の皆さんにできる限り、安全な自転車に乗っていただけるよう、これからも点検を続けていきたいとのことであった。</p>
<p>お客様が少なく、点検台数が思いのほか伸びなかった。高齢者及び一般成人の乗用自転車の整備不良箇所は多い。命を運ぶ自転車に対する軽視度に驚かばかりです。自転車に対する整備点検の重要性を指導していきたいです。</p>
<p>タイヤの不備が多い様子。防犯登録はされているが、TSマークの貼付率は今一つ。貼付されていても期限が切れている自転車も多く、更新の勧めをどのようにするか課題。</p>
<p>タイヤ、ブレーキ等安全にかかわる修理箇所が結構あり注意しました。したがって、点検が大切と実感しました。また、TSの必要性も指導しました。</p>
<p>点検を実施すると整備を必要とする自転車が多い。特に、タイヤに空気が少ない自転車が多い。</p>
<p>今年度は昨年度より1店舗減になり実施した。どの店舗も要整備車が多くみられ、点検は特にタイヤの空気圧調整、ブレーキ調整、チェーンのたるみ等を中心に実施し、好評を得た。TSマーク無の自転車には、内容を説明し加入を勧めたら加入したケースもあった。</p>

<p>自転車は完成度や修理後を見れば、販売店の営業姿勢や技術力の優劣の如何は歴然である。昨今は安価自転車の整備点検が多く、要整備も共通箇所が多い。ベル破損、ブレーキ不良、リフレクタの変形等やタイヤの摩耗は依然として多い。ベルト自転車が多くなりチェーン自転車が減少。また、町内教育委員会や広報等を通じ、小学校に「店舗型実施」を広報していただき、来店者とその友達の自転車も点検依頼があり効果はあった。各店の貢献で店舗型事業も回を重ねる毎にリピーターがウエートを占め要整備も減少となっている店舗もある。のぼり旗の浸透で、来年度の各支部長の施策が楽しみである。</p>
<p>組合員の高齢化に伴い自転車の安全整備点検が難しくなっている状況の中で実施いたしました。来年度も自転車の安全整備点検に積極的に取り組みたいと思います。</p>
<p>地域密着店舗としてアピールするには、大変有効な事業であり、安全と安心を提供する組合員にとっての貴重な商いである。出来れば記念粗品の提供が望まれる。</p>
<p>来店のお客様に積極的に声掛けをし、安全点検を実施した。整備箇所をすぐに店で整備することができ良かった。</p>
<p>伝票の記入に関して理解してもらえない店舗が数件あったが、後はほぼ間違いなく記入されていた。多数の店が無料点検に参加でき、自転車の点検の大事さを痛感できました。今後もこの活動を推進していききたいと思います。</p>
<p>他県に比べて、販売台数が少ないので、安全点検台数も少なく、あまり効果がないような気がする時もあります。</p>
<p>店舗型は来店したお客様の自転車を点検して伝票を書き、集計して報告書を作成するだけの簡単な作業だと説明し協力いただいているが、一方で、実施店舗数が増えないのは非常に残念だ。すべての組合店が店舗型点検を実施していると思うが、伝票と報告書の記入を面倒と思うか思わないか、そこが実施店舗数に出てくるのだと思っている。</p>
<p>全店各自に期間を設定し、数カ月連続で実施した店舗と数日間で集中的に実施した店舗に分かれるも、それぞれ実質的な点検整備を実施し、ユーザーに対してのアピールはできていると考えられる。今後の方針としては期間を限定し、各店舗が同時点で実施することも考えています。</p>
<p>無料点検ののぼり旗を見て来店をするお客様は少なく、パンク修理、整備で来店をした方に点検をする店舗が多い。しかし、中には前の年に点検を受け、また、お願いしたいと来店する方も何人かいて、県組合は取組から3年目になるのだが、成果が少しずつ見えてきたのではないかと感じる。組合員からも定期点検の必要性を常に言われており、事務局としてもできるだけ多くの組合員へ声をかけ、この事業に取り組んでいきたい。</p>
<p>まだまだ整備不良車が多く、ユーザーの安全に対する考えにおいて、自転車は軽車両との認識が全くないようである。点検が必要であるという啓発活動が必要である。</p>
<p>拠点型安全点検の場合は、点検後の要整備車はほとんど持ち込まれないが、店舗型安全点検の場合は、修理に来店された方が対象になるので(のぼり旗を見て来店される方はほとんどいない)、点検を実施した時、不良箇所があるとその場ですぐに修理ができた場合が多い。そのため、お店の収入にも繋がったとのことなので、今後、店舗型安全点検を実施する店舗を増やしていきたい。お客様には喜んでいただいている。</p>
<p>平成27年6月の改正道路交通法の施行に伴い、自転車運転者講習制度の広報や交通ルールを周知し自転車マナーの向上に繋げる取組として、交通対策協議会より「自転車マナーアップ強化月間」に組合員店での一斉無料点検実施への協力依頼があったため、本年度は特に9月に安全点検実施が集中することとなった。相変わらず、点検実施車にはタイヤの空気圧不足、ブレーキの不良、チェーンのたるみ等が目立つため、点検・整備の重要性について自転車乗用者の認識を深めることが必要である。今後も各店舗での丁寧な説明と無料点検・整備の地道で継続的な実施が望まれる。これにより利用者の安全意識の高揚を図る効果も一層高まるものと期待される。</p>

安全点検講習会

<p>交通安全協会や幼稚園の協力のもと、小学生や幼稚園の保護者を対象に講習会を実施しました。特に小学生に対しては分かり易い説明を心がけました。自転車の乗り方や交通ルール、そして、点検整備の大切さについて知ってもらうために今後も取り組んでいく予定です。</p>
<p>自転車乗用時の交通法規を周知し、交通マナーを守って安全運転をするように。また、小中学生にはヘルメットの着用を、高齢者には無理な横断等をせず皆の手本になる安全運転を呼びかけました。</p>
<p>おはようサイクリング自転車安全教室では、幅広い年齢層の参加なので、自転車の正しい乗り方、走行前の点検等注意点を中心に指導、TSマークの保険額の変更について説明した。小学生には、交通ルール・正しい乗り方等について指導した。</p>
<p>サイクリング大会の会場で、参加者に合わせた内容で講習会を実施した。6月から施行された「自転車運転者講習制度」等の質問もあり、安全運転・安全点検の関心が高まっていると感じた。点検の継続性や付帯保険のTSマークの有効性を今後も広い総に伝えていきたいと思う。</p>
<p>今年も昨年より多くの会場で実施することができた。学校、警察、安全協会などの協力により、自転車の乗り方、ルールなど、実技指導を行いながら講習できた。</p>
<p>毎年実施する所が決まっている。少子化の影響で講習会をとりやめた学校もあり、残念である。</p>
<p>年々参加者が減ってきている。イベントとのタイアップで実施したが、次回は別の方法での講習会の実施を考えている。</p>
<p>自転車通学禁止の小学校であるが、地区交通安全協会と一体で児童の交通安全に努めていることにより、児童の交通事故減少に効果を得ている。</p>
<p>自転車の安全対策の向上を図るため、主に学校における各種催事の要請に協力し、自転車の正しい乗り方や交通ルール・マナー等を指導し、学校としても積極的に取り組む姿勢が見られました。</p>
<p>地元の警察官や地域の方々と連携させてもらい開催した。道路交通法や二重ロックなどについても詳しく説明した。</p>
<p>小学校では、警察官の方より交通安全の講話があり、続いて自転車組合員より自転車の点検を行った結果の報告をした。ベル・リフレクタ・尾灯に要整備自転車があり、走行時にとっても危険である。常に点検をして自転車に乗って欲しいことを伝えた。商店街での参加人数は少なかったが、自転車点検についてと安全利用五則について説明した。点検した安心な自転車での安全走行を心がけていただけるよう伝えた。</p>
<p>学校、安全協会及び警察等の協力により自転車乗用中の交通ルールの遵守、点検整備の重要性等々を説明、今後の自転車乗用に役立て、自転車の交通事故が減少することを期待。</p>
<p>保護者及び学校職員から自転車交通安全に対する認識を高める指導の要望が多い。例年どおり、法規、マナー、安全な乗り方指導等実施し、皆、真剣に取り組んでいたことから、自転車交通安全の成果は大いに期待できる。</p>

<p>警察署の方から「交通安全講話」や「交通事故の状況」と交通指導員から「正しい自転車の乗り方」についてのお話の後、横断歩道等での歩行練習と自転車走行練習を実施した。講習会を実施した学校から交通ルールや足ブレーキではなく、手でしっかりブレーキをかけて止まることや後方確認をしっかりするなど大切なことを再確認することができたという感想があった。</p>
<p>交通ルールを守って走行、ヘルメットの着用、横断歩道の渡り方やTSの必要性などを指導しました。</p>
<p>自転車の点検の仕方を親子で学んだので、家庭でも特に、空気を入れて乗ることを心がけたいとの感想がありました。</p>
<p>警察官からは交通安全講話、自転車組合員からは通学自転車のTSマークの説明をした。同時に、通学用自転車の整備点検を実施し、安全利用と交通事故防止を図った。</p>
<p>今年度は講習会が例年以上に小・中学校で実施された。正しい自転車の乗り方の説明後に自主点検も実施した。報道関係の取材もあり生徒の態度も良好で、パンフ等利用した「自転車運転者講習制度」施行について警察官・組合員等交代で説明。Wロックの必要性やマナーについても関心度が高く、熱心に聞き入れてくれたと思っている。通学自転車の整備点検については都市部でない学校の方が良好で、講習会が実践へと結びついている成果であると確認している。</p>
<p>自転車協同組合の存在を知ってもらい、また、組合が社会に対する活動として、有効に寄与できる講習会である。</p>
<p>親子の参加が多数あり、安全意識が高まった。特に、安全な乗り方やマナー指導に関心があった。</p>
<p>安全点検や実技指導といった地道な活動によって生徒や児童だけでなく、その保護者の安全や防犯に対する意識や関心も高まり、修理が必要な自転車について説明を加えることで、さらに安全安心の意識を強めることができた。</p>
<p>本年は6月からの「自転車運転者講習制度」の施行に伴い、制度の流れについての説明を中心にを行ったようである。受講者からは対象となる危険行為等についての質問もあり、有意義な講習会が実施された。</p>
<p>低学年と高学年とに分けて指導する必要がありました。高学年には、警察の指導で自転車に乗れるのは4年生からとのことで、実践的な乗る練習を中心に指導しました。低学年は交通ルールを中心に指導しました。毎年、警察・安全協会と共に地域の学校の生徒へ自転車に乗るための安全指導を実施し、地域に貢献することができています。</p>
<p>講習会を実施する支部が偏っており、支部によって、ばらつきがあるので、できれば拠点型安全点検と一緒に実施するのが、望ましいのではないかと考えています。</p>
<p>例年に比べて参加者が少なかった。組合からは理事長他2名がスタッフとして出動した。県警担当の方は「自転車事故の現状」を自身の体験を交えながら、交通安全協会の担当の方は安全教育・安全整備について講話され、参加者一同熱心に耳を傾けていた。午後からは当組合の前理事長が「自転車の構造機能と点検整備の実務」をTSマーク等の話も織り込みながら講話した。その後、参加者は2班に分かれ自転車の安全な乗り方や車からの視界・死角等について実技体験をした。本日受講されたことをそれぞれの地区や職場で役に立てていただけたことだろう。</p>
<p>どの会場でも自転車の乗り方、ルールについての講習を行った。自転車のルールを守らなかった場合、罰則があることを未だ知らない人もいて、この様な講習会開催の必要性を感じた。また、自転車事故により加害者となりうることの怖さ等も説明に加え、自分に合ったサドルの高さで、専門家の点検を受けた安全な自転車に乗って欲しいと説明したとの報告があった。</p>
<p>昨年より1会場減。参加人数は増加。安全乗用の意識が保護者を中心に高まったのが、参加人数増の要因と思われます。</p>
<p>小学生を対象とした依頼が多かった。点検整備と防犯登録の重要性を勉強してもらうことができた。</p>
<p>主に子供と高齢者の交通事故防止を目的とした交通安全教育行事等で、交通ルールとマナーの実践や自転車の点検整備に関する講習を通じて、自転車利用者の安全意識の向上と点検整備の励行の重要性に関する理解を深めることができた。今後は実施会場数を増やし、さらに自転車の安全利用の推進に努めたい。</p>

以 上